



国旗の青は青空を、黄色は小麦畑の色を表しています

Добрий день!(ドブリ・デーニ : ウクライナ語で「こんにちは」の意味です)

皆さんこんにちは！前回のお便りを書いたのは昨年12月のことで、その時は「今年の冬は例年に比べて暖冬のように…」とお知らせしましたが、年が明けた2012年1月の下旬ごろから、東欧地域は大寒波に見舞われ、特にウクライナではその被害が大きく、最低気温がマイナス20度以下、最高気温ですらマイナス15度前後の日々が続きました。積雪はさほどでもありませんでしたが、マイナス20度以下の世界と言うのは初めての経験でしたので、とにかく驚くことばかりでした。私の場合、オフィスまで徒歩で出勤するのですが、水分はすぐに凍ってしまいますので、マフラーやまつ毛についての呼気も全て凍ります。マイナス20度以下の中ですと、5分程度外にいるだけで、寒さのために頭痛がしてくるほどでした。気温がマイナス15度程度の日には同僚たちと「今日は少し過ごしやすいね」という会話が交わされるほどで、まさに想像を絶する寒さでした。

1.生活習慣について

今回の大寒波によって、ウクライナでは多くの方が被害を受けましたが、その多くが路上生活をする方たちでした。政府は一時的なシェルターを設置し、食料などを提供していたのですが、100名を超える死者が出てしまう事態となりました。このような事態を未然に防ぐための、社会保障の充実も大切ですが、今回のような場合、アルコール摂取による影響も指摘されています(飲酒によって、一時的に体温が上がったように感じてしまうため)。このようなウクライナにおける雇用問題や飲酒、喫煙などの生活習慣は、大きな課題です。特に、若者が若いうちから飲酒、喫煙を始めてしまうことは、彼らの健康を大きく損なう可能性があります。UNFPAも、特に若者に対して、リプロダクティブヘルスも含む「Healthy Lifestyle」を推進することによって、自らの健康を主体的に考える姿勢を持つことに重点を置いています。

2.国際女性の日(International Women's Day)2012

3月8日は、国連によって定められた、「国際女性の日」となっています。社会における女性たちの役割や参加の現状、可能性を確認し、今後のさらなる前進に向けて考える日とされており、世界各地では、毎年この日に女性の地位向上や男女共同参画を推進するイベントが開催されています。

UNFPAの重点課題分野の一つにジェンダーの平等がありますが、UNFPAウクライナでは、2012年の国際女性の日イベントとして、“Connecting girls-inspiring future”のスローガンの下、《Women's careers in Ukraine》をテーマに、ILO(国際労働機関)と協力し、パネルディスカッションが行われました。パネリストには、政治家、企業家、大学の研究者の方、歌手の方など、全て女性の皆さんをお呼びし、それぞれがウクライナでどのようにキャリアを築かれたか、また現在のウクライナにおける、女性の社会進出に関する課題などをお話ししていただきました。参加者も女性の方が多く、皆さんとても熱心に質問や意見を述べていらっしゃいました。中でも印象的だったのは、「この女性の日をただ、女性を称え、花を贈る日にするのではなく、もっと女性自身について、女性の役割について、考える日にするべきだ。」という意見でした。

今日 1月26日		曇時々晴 最高 -13°C 最低 -17°C
明日 1月27日		曇時々晴 最高 -14°C 最低 -22°C
土曜日 1月28日		晴れ 最高 -16°C 最低 -22°C
日曜日 1月29日		晴時々曇 最高 -14°C 最低 -22°C
月曜日 1月30日		晴れ 最高 -16°C 最低 -25°C
火曜日 1月31日		晴時々曇 最高 -19°C 最低 -26°C
水曜日 2月1日		晴れ 最高 -20°C 最低 -28°C

1月下旬の天気予報です。
この予報を初めて見た時は思わず
目を疑いました…。



パネルディスカッションの様子

日本では、国際女性の日はあまり馴染みのない日かもしれませんが、外国、特に旧ソ連圏では、二月革命にもつながった特別な日でもあるとのことで、盛大なお祝いがあります。かつては政治的な意味合いも含まれていたようですが、今は女性に対する感謝を述べる風潮が強くなり、この日には男性から女性に対して(時には女性同士でも)、花束やケーキが贈られるそうです。私も、オフィスの男性の皆さんから、花束とケーキをいただきました。また、ある女性スタッフからは、日本をイメージして作ったという、さくらをモチーフにした手作りのフラワーアレンジメントもいただきました。やはり女性としては、お花を贈られると嬉しいものですね。ですが、パネルディスカッションの参加者の方もおっしゃっていたように、この日をただ女性を称える日にするのではなく、女性の社会における地位や、女性の役割について考える日にするというのは、重要だと思います。日本ではあまり馴染みのないこの日ですが、こうした日をきっかけに、今ある課題



いただいたお花とフラワーアレンジメント。
窓の向こうに見えるのは…
そう、雪です。

を考えるということは、とても重要ですね。

3.近況報告：東日本大震災追悼イベント

UNFPA での活動と直接関係はありませんが、去る 3 月 11 日には、首都キエフにおいて、東日本大震災で犠牲になった方を追悼し、復興を祈るためのイベントが開催されました。3 月 11 日、現地時間の朝 7 時 46 分（日本時間の 14 時 46 分）から、タラス・シェフチェンコ記念ウクライナ国立オペラ劇場前広場にて、11 分間の黙祷が捧げられました。当日は雪が舞い、風も強い日でしたが、早朝にもかかわらず 100 名近くの参加者が集まり、その多くはウクライナの方たちでした。「がんばれ！日本」と書かれた幕の下、日本のために祈りを捧げてくださる現地の皆さんの姿に、とても心打たれました。同日夜、同じく国立オペラ劇場にて、東日本大震災・チェルノブイリ・福島に被災者に捧げるチャリティ・コンサートも開かれました。チェルノブイリ事故を経験したウクライナでは、今回の震災、福島原発の事故に対する関心もとても高く、このような温かな皆さんの気持ちを目の当たりにして、私も自分にできることを、精一杯していきたいと強く思いました。



早朝にも関わらず、多くの方が集まってくださりました。キャンドルを手に持ち、日本への祈りが捧げられました。

早いもので、残りの任期も 100 日を切ってしまいましたが、1 日 1 日を大切に、充実したものにしていきたいと思ひます。

それでは、また次回のお便りをお楽しみに。

2012 年 3 月

市野紗登美

United Nations Population Fund(UNFPA)Ukraine

Specialist on Local Development and Reproductive Health